

地方都市の広場・公園空間における空間利用実態に関する調査

—中国・新余市と甲府市を対象として—

山梨大学大学院 学生会員 ○傅 益
山梨大学大学院 正会員 大山 勲

1. はじめに

(1) 研究背景

人々が日常生活の一部として様々な目的で自由に利用できる屋外空間の存在は、人々のコミュニケーションを誘発して、豊かなコミュニティを形成する媒体として重要である。現在、中国においては住宅地内の広場・公園空間は、地域住民のコミュニケーションや様々な活動する空間として盛んに利用されている。

一方、日本において広場・公園空間は利用が減少している。日常のコミュニケーション機会の欠如は地域コミュニティの希薄化を加速させかねない懸念がある。また、将来の中国でも社会の変化により、広場・公園利用の減少とコミュニティの希薄化が懸念される。

(2) 既存研究と本研究の位置づけ

日本において広場・公園の利用活動の実態と公園の評価に関する研究は古くからみられるが、社会環境の変化に伴って、利用内容の変化が進む中、近年の広場・公園空間の利用実態と利用者の評価を把握することは、今後の広場・公園作りのために必要である。

広場・公園空間は休憩や様々な活動のための場所であるだけでなく、住民の社会的な接触・交流にとって重要な意味を持つ空間である。しかし、広場・公園空間の利用実態の特徴を明らかにする上でのコミュニケーション活動の特徴に焦点を当てた研究はほとんどない。また、中国の広場・公園空間の利用実態に関する研究はあまり見られない。

(3) 研究対象と研究目的

住宅地内の広場空間は、周辺に住んでいる住民に日常の快適性を供するとともにコミュニティ・コミュニケーションに影響すると考えられる。そこで、本研究では、中国と日本の都市の住宅地内の広場・公園空間（以下「広場空間」と記す）を対象とする。

そして、住民の広場空間の利用実態と広場の空間形態との関係、利用意識を調査する。その現状を報告す

るとともに、コミュニケーションの場所としての広場空間のコミュニティへの効果に着目して考察したい。

中国と日本を対象とする理由は、今でも盛んに広場利用がされている中国の状況は日本に示唆を与え、利用が減少している日本の実態は中国の将来に示唆を与えると考えたからである。なお、本稿では紙面の都合から中国の実態把握の結果を中心に調査結果を報告する。

2. 調査概要

(1) 調査地の選定

中国は、江西省新余市の住宅地区の中心部にある「新余市人民広場」を対象地とした（写真 1）。ここは新余市の市役所の隣に位置し、近隣住民の日常的活動に利用されている。（写真 2）



写真1 人民広場



写真2 朝の利用活動

新余市は地方の小都市で、市区人口 38 万人で市域の人口密度は 345 人/km² である。「人民広場」は新余市の都市北部の中心部に立地し、東側と西側には、30 年前からの住宅地があり、南北側は商業用地とオフィス地域が混在している。近年、居住地域が商業・オフィス機能に変化しつつあり、郊外の新住宅団地開発によって、近隣住民は次第に減少しつつある。

広場空間は三つの部分に分けられ、東側は丸型の噴水があり、その隣に多くの人が集まる空間がある。広場の中央は多くのベンチが配置され、中央部の両側と西側には散歩コースがあり芝生と灌木が植栽されている（図 2）。

(2) 調査方法

広場空間および周辺環境の現状調査、活動主体へのヒアリング調査、広場空間内の活動概要を把握するた

キーワード：中国 広場 利用活動 コミュニケーション

連絡先：山梨県甲府市武田 4-4-47 山梨大学大学院医学工学総合研究部 E-mail : ooyama@yamanashi.ac.jp

めの移動観察調査、活動の詳細を把握するための定点移動観察調査、を2012年8月から9月に行った(表1)。

表1 調査概要

調査時間		調査項目と対象	主な内容
2012年	8月	広場空間と周辺地域の現状を調査	広場空間の計測、周辺地域の土地利用・用途の状況把握
	8月25日、26日	活動主体（グループ活動の場合は活動グループのリーダー）へのヒアリング	活動内容、グループ活動の発生から現在に至る経緯・成員人数、利用時間帯、等
	8月27日、28日、9月2日	移動観察調査	利用者特徴（年齢・性別・同行者等）と活動内容・活動場所を記録
		定点移動調査	移動観察調査によって特定された活動が多い3ヶ所において、活動の多い時間帯（2時間）を連続で観察し、利用者特徴・活動内容、人・活動の入れ替わりの状況を記録

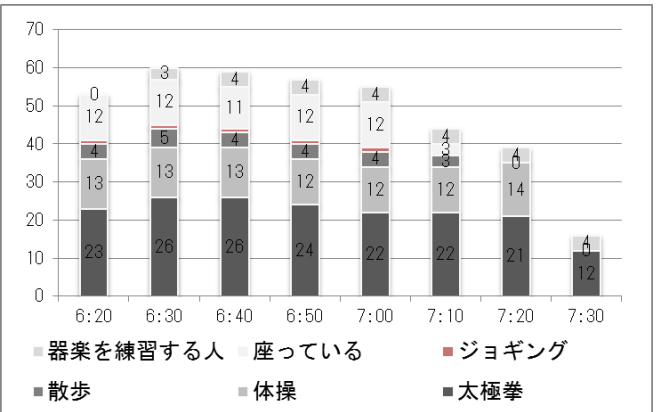
3. 活動の利用実態（移動観察調査）

（1）活動内容と利用者人数の時間変化

広場の利用時間は朝（6時～8時）と夜（18時半～21時半）に集中していた。活動する利用者の年齢層と性別、利用場所と利用時間を確認し、さらにビデオカメラでその活動状況を記録した。

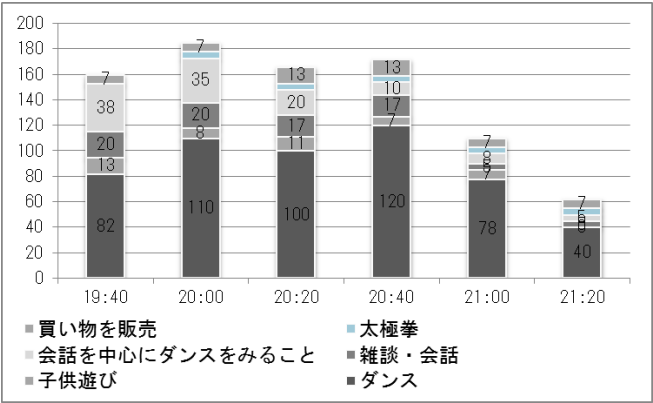
朝の活動では、「15人以上の大きなグループの老人達の太極拳活動」「10人程度の中年主婦の体操・ダンスのグループ活動」「伝統的な歌や楽器を練習する個人の趣味活動」、また「散歩・ジョギングの個人活動」がみられた（表2）。

表2 朝の利用活動の実態 n=48(平均利用人数／一時点)



夜は、主要な利用者の年齢層は主婦、中年人、子供であり、主要な活動内容は「中年・中老年・主婦の集団のダンス活動」、「小グループの老人の太極拳」、「小グループの子供達の遊び」、「個人の散歩」、「小グループの会話」、「子供を相手にした物品の販売や遊び道具のレンタル」の利用活動がみられた。

表3 夜利用活動の実態 n=142(平均利用人数／一時点)



（2）活動の内容

定点観察調査によって、活動内容を、集団運動、個人運動、趣味活動、交流活動、個人活動、その他に分けて、把握した（表4，図1）。

表4 活動内容の詳細

活動分類	活動内容	説明
集団運動	太極拳	中国の伝統的な武術と健康的活動である。
	広場ダンス（ダンス、体操）	中国的なダンス、現代的なダンス、ラジオ体操などの健康運動を音楽を流し集団で行っている。近年、中国の老年化に伴い、中年、中老年、主婦の利用が増えているとみられる。
個人運動	散歩・ジョギング	空間内の散歩コースがあるので、広場空間内の景色を見ながら歩いている
	体操・健康運動	個人の体操は主にラジオ体操（朝はラジオ体操音楽を流している）や簡単な健康運動。
趣味活動	伝統的な歌	民謡などを歌う
	楽器の練習	二胡や中国の代表的な古典劇を練習している
交流活動	会話・雑談	知り合いや友達と交流する
	他の人を観察	会話を中心に他の活動を見る
その他	買い物の販売	お菓子、おもちゃの販売

（3）グループ活動の状況

グループ活動のリーダーのヒアリングにより、グループ活動の実態を把握した（表5）。健康のためのダンス・太極拳のグループ活動が主であり、リーダーがいて音響機材準備や指導をおこない、不特定多数の人が集まり交流する場を作っている。またリタイアした人は家に籠もっていても寂しいので広場のダンス活動に

惹かれている。

表 5 グループ活動の実態

グループ	成員人数	成員年齢層	活動頻度	リーダー人数	会費	グループ経過
ダンス 1	100 人	中年・中老年 主婦、老人	ほぼ毎日夜 19:00 から 21:30 ま で	3 人	毎月 80 円	2008 年に 50 人ではじまった。リーダーは 3 人で、毎日コンボを広場に持ってくる。2010 年にダンス活動人数が急激に増えてきた
ダンス・ラジオ体操 2	50 人	主婦 30 代から 60 代まで	ほぼ毎日夜	2 人	毎月 100 円	2011 年にいくつかの小グループが合体した。リーダーは広場周辺のフィットネスクラブの先生であり、体験するためにだれでも参加できる
太極拳 1	13 人	老人 70 代	週に 4 回朝	1 人	なし	20 年前に市役所前の広場空間で活動を行っていた。最大人数は 100 人ぐらいがあったが、活動する場所が減少し、大分の成員の家は新住宅団地に移動したため、グループの人数は減少した。
太極拳 2	6 人	主婦、中年人	週に 3 回	1 人	なし	10 年前から 6 人で太極拳グループを組んだ。家の近くで太極拳をしていたが、現在は広場でしている。
太極拳 3	5 人	老人 70 代以上	ほぼ毎日夜	1 人	なし	10 年前に活動を始めた。太極拳用の服や音楽機器を揃えている。構成員は定年した後、家で一人で寂しいので、外で知り合いと一緒に活動をしている。



朝の体操グループ活動



夜の雑談、会話の活動



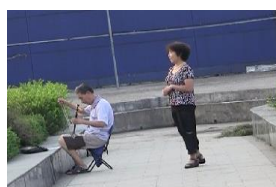
夜のダンスグループ活動



夜の販売する活動



朝の挨拶・雑談の活動



朝の伝統的な歌の練習

図 1 利用活動の様子

(4) 空間施設への要望

広場空間に対する要望としては、「夜の照明施設」「ベンチの数をもっと多く」「芝地の面積を大きく」「植栽を多く」と答えた人が全体回答者の 6 割を占めた。

4. 広場空間の利用実態（定点移動観察調査）

ビデオカメラに記録することにより、空間の利用状況を調べた(図 7)。

広場の東側と中央部が多くの人が集まれるタイル舗装された平らで開放的な空間があり、ベンチと照明などの施設があり、主要な出入口に近く、夏の朝は木陰がある。そのため、朝は太極拳、老人のダンス、中老年人の体操などのグループ活動と、夜のグループダンス活動の場として利用されている。また、中央部には

芝生と灌木等の植物があり、東側により静かなため、個人活動の太極拳、体操、散歩の場として利用されている。

夜も同様でグループ的なダンス、雑談、集団活動は東側に集中し賑やかである。図 7 の B エリアの両側には縁石やベンチがあり、C エリア内には多くの芝生や灌木等の植物が配置され、散歩用の路地があるので、太極拳(個人活動と集団活動の両方)と、散歩、雑談、他の人を観察する等の静的な活動が行われていた。ダンス等の活動を意図して設計された空間ではなく、必ずしも使いやすくないが、人々はこの空間の開放・閉鎖空間の特性を活かして動的な活動空間(A)と静的な活動(BC)に使い分けていた。

コミュニケーション活動が見られた朝の事例としては、東側の空間において、太極拳のグループ活動と体操のグループ活動がみられ、約 1 時間の利用時間のうち、15 分の活動毎に 5 分の休憩時間を取りグループの構成員達が雑談していた。また、同じ場所で噴水の縁石に座れるため、散歩やジョギングという個人運動でも休憩の時にそこで知り合いや友達と挨拶や会話している交流活動が見られた。

夜の事例では、ダンス活動がこの広場の主要な活動であったが、ダンス活動を核に別のコミュニケーション活動が誘発されている様子が見られた。ダンス利用者は知り合いや家族に連れで来る場合が多く、親と一緒に来た子供が他の子供たちと遊んだり、そのような子供目当てにお菓子や遊び道具を販売する活動が誘発されていた。さらに、ダンス活動の回りで会話をしながらダンス活動を見たり、ダンス活動に興味があつて

ダンスを見学しながらダンスについて話す活動が誘発されていた。

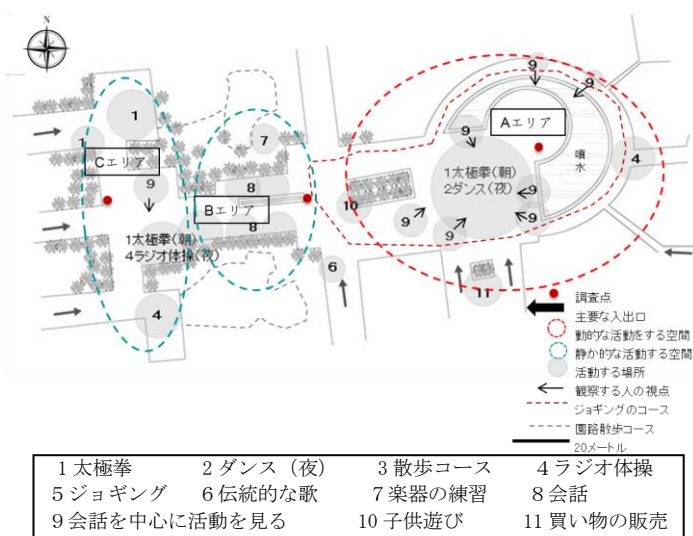


図2 利用の空間特徴

5. 日本と中国の広場空間の利用活動内容と時間の比較

地方の小都市である山梨県甲府市の住宅地内の緑ヶ丘スポーツ公園の芝生広場、千塚公園、遊亀公園、池田公園で広場空間の利用実態の移動観察調査を行った。日本と中国の広場利用活動の実態を比較してみたので、以下に記録している。

①活動の種類と利用年齢層については、中国では中年人・老人達の太極拳・ダンス・ラジオ体操などの人数が多くクループの集団活動が多いが、日本の場合は若い母親や夫婦の子供を連れての遊具遊びとそれを媒介とした親同士のコミュニケーション、老人のベンチに座って回りの活動を眺める個人活動、散歩途中の立ち寄り、子供の小集団の遊び、であった。

②利用時間について、中国の利用者は体を鍛えるためにほぼ毎日利用する人が多く朝夕に利用が集中する。日本は主婦、老人の利用は日中全般に拡散的で、それ以外の利用の多くは週末に集中する。

③日本では、広場空間で知らない人と知り合いになったことがある人は51%（60歳以上では53%）、挨拶をかわす程度では20%（60歳以上では52%）、他人と交流したいは21%（60歳以上では63%）であった。広場空間におけるコミュニケーションに期待する人は現状でも少なからず存在し、特に高齢者では半数以上がコミュニケーションに期待を持っている。

6. まとめ

中国ではリタイア後の高齢者を中心に健康づくりに関心の高い社会的背景の下、集団活動のリーダーがコミュニケーションの誘発を助けていた。リーダーはほぼ毎日、定期的時間帯に決まった場所で活動の指導をしているので、多くの人の参加を促し、さらに子供への商売や見る-見られる関係など、他の活動も誘発している。コミュニケーションを助ける役割としてこのようなリーダーの存在は重要であると思われる。日本でも過去に紙芝居や演芸など広場空間に人を引き寄せる活動が見られ、最近ではごく一部の公園でプレイリーダーなど子どもに遊びを指導する例も見られるようになったが、例えば元気な高齢者を中心としたもっと日常的で気軽に参加できる活動を誘発するリーダーの養成が、広場空間を核としたコミュニケーションづくりの1つのヒントになりそうである。広場利用が少なくなり個人活動が多い日本でも、高齢者を中心にコミュニケーションを期待する人は少なくない。

一方、中国では家族や近所の知人と一緒に広場へ行く行動が多いが、日本の広場利用の少なくなった現状に学ぶならば、独居老人の家族形態を増やさない施策や、近所の知人との交流を大事にする文化を大切にしていっていった、社会・文化的な特徴を失わないようにすることが1つの示唆となるように思える。

参考文献：

- 1) 中国の都市公園における市民の朝の利用活動に関する研究—上海市黄浦公園を対象として—日本建築学会計画系論文集 第73巻第663号 2008年11月
- 2) 騎楼街区の空間構成と屋外休憩スペースの特徴 —中国広州都市の騎楼街区における屋外空間の利用実態とコミュニティ形成に関する研究—（日本建築学会大会学術講演梗概集 九州 2007年8月）
- 3) 都市の公園における人の居方と環境形成に関する研究—駒公園を事例として—（日本建築学会大会学術講演梗概集 近畿 2005年9月）
- 4) 津市の身近な屋外空間の現状と利用実態 —地域の屋外空間の計画に関する研究—（日本建築学会東海支部 研究報告 1995年2月）